



自転車ブーム



爽快に風を切る

最近では自転車ブームである。特に、折り畳み自転車が人気を集めている。休日に散歩コースを歩いていると、その横を颯爽と走り抜ける自転車がある。休日だけではない。平日に通勤に使う人もいる。

天気の良い日に風を切って走るの気持ちがいい。街の空気を感知しながら走るの、季節感を満喫できる。ただし、雨が降ると途端にダメになる。片手で傘をさしながら乗るのは不安定だ。合羽やポンチョという雨具を着るのは面倒だし、梅雨ときには大汗をかいてしまう。雨が降ったときでも乗れる自転車というのは、いまだに実現されていない。

雨の日には乗れないこともないが、雪の日の自転車は最悪だ。雪上では自転車を直進させることも難しい。ペダルを漕ぐたびに体が左右に大きく振れてしまう。

無駄のない部品

自転車の構成は単純明快である。ほとんど無駄がない。ワイヤー1本が切ただけでもブレーキが効かなくなる。ほんの小さな穴でもチューブにあくとタイヤの空気が抜けて乗れなくなる。走行に支障がないのは泥よけのカバーと荷物カゴくらいのものだ。

部品が標準化されているのは、自転車の特徴だ。なかには折り畳み式のフレームなど、各社各様の部品もある。それでもタイヤやブレーキ、ペダル、変速器などは標準的なものが多い。マニアは自転車を改造しながら楽しむことができる。

自転車用の工具は、部品が標準化されているおかげで、どの自転車にも使える場合が多い。

鍵

自転車の弱点は盗難に遭うことだ。鍵を取り外してしまえば、盗人はその自転車に乗って逃げてしまう。各種の自転車用の鍵が出そろっているが、決定版がない。そもそも自転車の値段よりも、鍵の費用が高くなるとは意味がない。

自転車の鍵には国柄がある。アメリカでは頑丈な鍵をかける。日本でいえばオートバイに付けるような太いワイヤー、あるいは金属の輪を自転車にかける。実際にアメリカでは盗難も多い。大学の構内では自転車からタイヤが取られていたり、

逆にタイヤがしっかりワイヤーで固定されているために自転車の本体が盗まれたりしている。

日本でも有料の駐輪場などには自転車を固定する金具がある。アメリカの街角では、無料で使える簡易式の金具を見かける。私が一番感心したのは昔のスタンフォード大学の構内にあった『バイクロッカー』である。これを説明するのは難しい。ちょうど自転車がスッポリと入る大きさの巨大鳥籠のような金属の網目の箱だ。

そのバイクロッカーは学生の会が管理していた。利用者は料金を会に支払う。

ランプとベル

昼間は快適な自転車も夜間になると弱い。ランプを点けるのに発電器を回すとペダルが重くなる。乾電池式の電灯では電池が消耗する。充電式の電池を使うのがよさそうだが、せっかく自分で動かして「自転車」になっているのに、商用の電力を消費するのでは環境に優しくない。

街の中を走行するときには、ベル(鈴)が必要だ。歩行者のうしろでベルを連打するとひんしゅくを買う。それでも無音で衝突するよりはベルを鳴らしたほうがいい。

人混みの中を自転車で抜ける時、対向して歩いている人は自然に避けてくれる。同じ方向に歩いている群衆の中を抜けるのが難しい。誰も背後の自転車に気付いてくれない。なかには蛇行して歩く人がいる。夢遊病か酔っぱらいかと思ったら携帯電話で会話中の人だったりする。予想もしないような動きをするから要注意だ。

歩行者が邪魔物になることもあるが、結局のところ自転車は世の中の理解を得ないと走れない。アメリカの友人が、ある町で自転車競技会を行った。その付近の住民の中に「うるさい」と反対する人がいて、競技コースに画びょうを撒いてしまった。それでレースは大混乱になったという。画びょうを撒かなくても、道路の上の異物を放置しておけばタイヤがパンクしてしまう。自転車はきれいな道の上しか走れないのだ。

Illustration: Harada Kozi



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp